



一隅を照らそう
3月号
386号
毎月28日発行
E-mail: info@tougakuin.jp



後唄

住職 中島 有淳

八日(薬師如来)、二十八日(不動明王)などのご縁日には、二時よりご参詣の皆さまと一緒に本堂でお参りをしています。
午後二時開始の鐘が鳴ると、式衆の声明(節のついたお経)が始まり、続いて本日の趣意が申し述べられ、そこから読経が始まります。般若心経やご真言をお唱えし、約一時間弱の法要です。
お経本は毎回寺務所で貸し出しをしていますが、熱心な方はご自分の経本としてお求めになり、慣れた調子で一緒に法要に参加されます。
さて、毎度必ず法要の最後にお唱えするのが「後唄」という一節です。
冒頭の声明を「始段唄」と位置づけ、そこから「如来唄」...と進み、最後の唄なので後唄といえます。ですから多くの寺院では僧侶のみで唱えるのです。その文言は

次後唄

○ 超日月三昧終上文
後唄
契唄之義
虚世界如虚空 如蓮華不着水
心清淨超於彼 稽首礼無上尊

同右之儀 謝贊金一丁 時路 誦三礼至當願礼 衆同持持解

虚世界如虚空 世界に處すること虚空の如く
如蓮華不着水 蓮華の水に著せざるが如し
心清淨超於彼 心清き淨なること彼に超えたり
稽首礼無上尊 稽首して無上尊を礼したてまつる
※虚空...一切諸法の存在する場としての空間
※稽首...頭を地につける挨拶
※無上尊...人天の中で最も尊勝なる仏
意識すれば、
「いま生きている我々のこの世界は、受け取り方次第で、総てが仏の教えである。蓮は汚泥の中にあつても泥にまみれない。その姿はまるで彼岸(苦しみのない世界)に至ったものの様である。その在り方を体現された仏(仏陀)に、心から敬礼します」といったところでしょうか。

ここには蓮の花が登場します。蓮は泥の中から美しい花を咲かせ、仏教の象徴的な花です。世俗に生きる我々の希いを表します。これは転じて「私もそうありたい」という誓いであり、法要の最後に決まってこの文言をお唱えするのは、味わい深く清々しいものがあります。

※本稿は『天台宗実践叢書 第三巻』を参照しました

折りよしのはな

河津桜
少しづつ暖かくなり
早咲きの河津桜を
ボーンと眺めていましたら
目白が一羽
花の間を行ったり来たり
一心に蜜を吸っています
甘くておいしいのカナ!
こつくりとしたピンク色の花と
愛らしい目白と
春色の空に
しばしうっとり



月例行事案内
○八日 午後二時
薬師如来祈禱会 観音経読誦
○十一日 午後二時
智泉院法要日(於・日本橋茅場町)
○十八日 午後二時
観音経読誦法要(於・神木観音堂)
○二十八日 午後二時
不動明王護摩供修行
* 毎朝六時より公開で朝のお勤めをしております
ご都合のよろしい時にはご一緒どうぞ

♪ いっしょに歌いましょう ◆ 月例・止観(坐禅)会
三月八日 三時~二十分位 三月十四日 九時半~十時半
童謡・手遊び歌など(無料) 五百円 ※要予約

◎ 巡拝バスツアーのご案内(日帰り二日に分けて)
川崎最古の霊場である『准西国稲毛三十三所観音霊場』が、
午年のこの春、十二年ぶりのご開帳(4/18~5/2)を迎えます。
當山でも全三十五ヶ寺を巡るバスツアーを企画しました。
(詳細は寺務所迄・パンフレット・申込書有ります)
・ 期日 四月二十二日(水)・二十四日(金)
・ 出発地 神木観音堂(二十八番札所)
・ 定員 二十名(申込順)
・ 参加費 一万三千元(一日)「昼食付。朱印・納経料別」

あめとがま

○ ロシアのウクライナ侵攻が始まって丸四年。その厳しい状況は変わりません。極寒の中、電気、水、暖房、食料や健康不安に不自由を強いられた人々の心中は政治と人間のもつ残酷さを痛切に感じます。

○ 自民党の高市政権の大勝には驚きました。世界における日本の立ち位置に注目です。アメリカ、中国、EU、北朝鮮...等の国益ファーストで世の中だんだん悪くなる...

○ 冬季オリンピックは日本のメダルラッシュで盛り上がり、感動のシーンも沢山ありました。次は野球(WBC戦)でしょうか。
○ 観音堂の御開帳にあたり、のぼり旗を募集します。それぞれの寄進者のご芳名を記入し、道々に目印の赤い旗を立てて、巡拝者をお迎えしたいと思います。(志納金・一本五千円)

開帳の時は今なり南無阿弥陀仏 高浜凜子